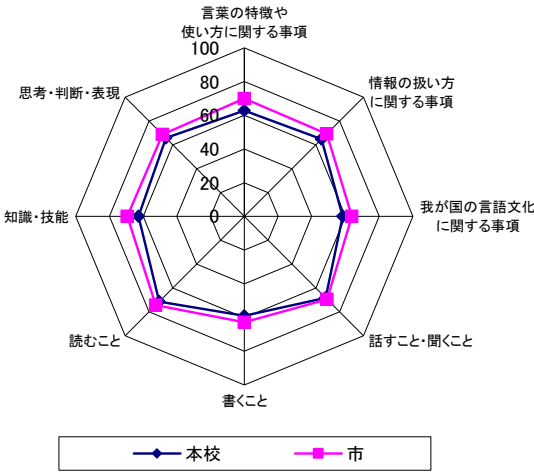


宇都宮市立五代小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |                 | 本年度  |      |      |
|-----|-----------------|------|------|------|
|     |                 | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 62.8 | 69.9 | 72.3 |
|     | 情報の扱い方に関する事項    | 64.8 | 69.2 | 73.0 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項  | 58.3 | 63.8 | 66.0 |
|     | 話すこと・聞くこと       | 68.2 | 69.5 | 71.5 |
|     | 書くこと            | 59.0 | 62.8 | 67.1 |
|     | 読むこと            | 71.5 | 74.4 | 73.7 |
| 観点別 | 知識・技能           | 62.8 | 69.4 | 71.9 |
|     | 思考・判断・表現        | 65.8 | 68.8 | 70.6 |
|     |                 |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

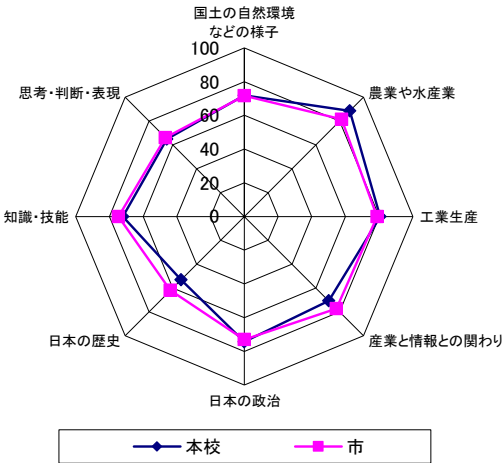
| 領域                  | 本年度の状況                                                                                                                                                                                   | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                               |
|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や<br>使い方に関する事項 | 平均正答率は市の平均正答率より低い。<br>○第6学年に配当されている漢字を正しく読む問題については、市平均正答率と同程度の正答率であった。<br>また、敬語を正しく理解しているかについての問題は、正答率がほぼ満点であった。<br>●第5学年に配当されている漢字を正しく書く問題については、市の正答率を大幅に下回った。また、熟語や接続語の問題についても同様に下回った。 | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・継続して漢字の読み書きを繰り返し取り組み、定着を図る。現学年の漢字だけでなく、下学年で既習済みの漢字も定期的に課題として取り組ませる。<br>・文章を書く活動において、既習の漢字を確実に使えるように細かく指導していく。<br>・熟語の意味や構成について調べたり、活用したりする活動を積極的に取り入れていく。 |
| 情報の扱い方<br>に関する事項    | 平均正答率は市の平均正答率より低い。<br>●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理したり、目的に応じて文章を書く問題において、市の正答率を4ポイント程度下回った。                                                                                                 | ・日常的に文章の中にある情報を整理したり、図表・グラフの意味を読み取って活用したりする活動を取り入れる。<br>・情報の扱い方の基本的な力を身に付けさせる手立てとして、複数の情報を比較したり関連性を見つけ出したりしながら目的に応じた文章を書けるよう支援していく。                                                    |
| 我が国の言語文化<br>に関する事項  | 平均正答率は市の平均正答率より低い。<br>●和語・漢語・外来語などの語句の由来についての問題の正答率は、市の平均を5ポイント程度下回った。                                                                                                                   | ・読書を推奨し、語彙を増やしていく取り組みを行うとともに、授業の中では新単元において辞書やタブレットを活用しての意味調べを行うようにする。<br>・覚えた言葉を日常生活や作文等で活用する機会を設ける。<br>・和語を漢語や外来語に言い換えたり、その逆をしてみたりする習慣を身に付け、語彙を増やせるようにする。                             |
| 話すこと・聞くこと           | 平均正答率は市の平均正答率より低い。<br>○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題については市の正答率を上回った。<br>●意図に応じて質問を工夫する問題については、市の正答率を下回った。                                                                                   | ・一問一答式の受け答えだけに留まらず、日常的に会話がより深まるような質問をし合う活動を取り入れ会話スキルの向上を図る。<br>・意見交換や討論の場においては、自分の主張と相手の意見とを比較したり吟味したりする経験を積めるよう指導していく。<br>・司会者や立場を明確にした話し合い活動を体験させ、話し方聞き方等の基本的な力を身に付けられるよう支援する。       |
| 書くこと                | 平均正答率は市の平均正答率より低い。<br>○目的や意図に応じて書き表し方を工夫したり、自分の意見とその理由を明確に書いたりする問題において、市の正答率を大きく上回った。<br>●指定された長さで文章を書く問題や予想される反論に対する意見を書く問題においては、市の正答率を大幅に下回った。                                         | ・授業のまとめや振り返りを簡単な文章や箇条書きでまとめる習慣を身に付けさせることで、要点を落とさず簡潔にまとめる力の醸成を図る。<br>・自分の主張と相手の意見との違いを明確に理解する活動を取り入れることで、日常的に相手がどのように反応してくるかを予測できる力を高めていく。                                              |
| 読むこと                | 平均正答率は市の平均正答率より低い。<br>○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる問題において、市の正答率と同程度であった。<br>●登場人物の心情について、描写を基に捉えたり、文章自体の構成や内容を捉える問題については市の正答率を下回った。                                                     | ・物語文の学習においては、場面ごとの内容や、登場人物の心情の変化を丁寧に読み取る活動を大切に、叙述を正しく読み取れるように支援していく。<br>・説明文の学習では、文章を読み取り要旨をまとめる活動や文章構成を考えさせる活動を多く取り入れ、内容や構成を正確に読み取る力や読解力が伸びるような取り組みを工夫していく。                           |

宇都宮市立五代小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |              | 本年度  |      |      |
|-----|--------------|------|------|------|
|     |              | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 国土の自然環境などの様子 | 71.9 | 71.6 | 67.5 |
|     | 農業や水産業       | 88.6 | 81.5 | 82.1 |
|     | 工業生産         | 80.6 | 78.7 | 70.8 |
|     | 産業と情報との関わり   | 70.8 | 77.2 | 68.2 |
|     | 日本の政治        | 74.3 | 73.1 | 77.9 |
|     | 日本の歴史        | 53.1 | 62.0 | 65.8 |
| 観点別 | 知識・技能        | 72.0 | 74.6 | 74.5 |
|     | 思考・判断・表現     | 65.0 | 66.2 | 65.2 |
|     |              |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

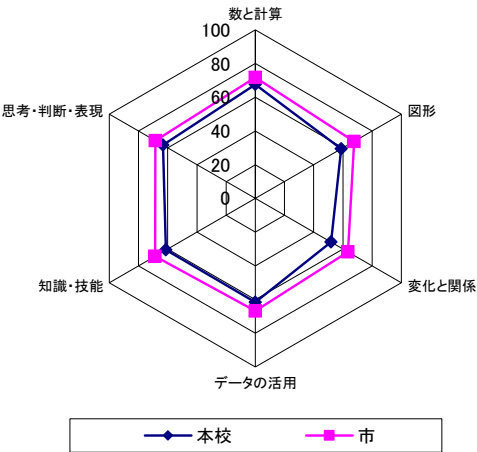
| 領域           | 本年度の状況                                                                                                                                                                               | 今後の指導の重点                                                                                                                   |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国土の自然環境などの様子 | 平均正答率は市の平均正答率と比べてやや高い。<br>○日本の周辺の海洋名を問う問題での正答率がやや高い。<br>○日本の周辺の国の国旗と位置を問う問題での正答率が高い。<br>●日本の主な地形の名称と位置をもとに、地図を読み取る問題での正答率が低い。                                                        | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・地図帳を活用し、地形や川、山地などの名称と位置関係を関連付けながら、知識を広げられるようにする。                                              |
| 農業や水産業       | 平均正答率は、市の平均正答率と比べて高い。<br>○都道府県の位置と農産物の産地の理解をもとに、日本の米の生産量上位3位までを地図から選択する問題での正答率が高い。<br>○カントリーエレベーターについて理解しているかを問う問題での正答率が高い。<br>○地産地消の取り組みについて問う問題での正答率が高い。                           | ・地図帳を活用し、都道府県の位置と主な農産物の産地を関連付けながら、知識を広げられるようにする。<br>・資料を活用しながら農業や水産業の基礎・基本となる知識の定着を図る。                                     |
| 工業生産         | 平均正答率は市の平均正答率と比べてやや高い。<br>○自動車工場の作業工程を問う問題での正答率が高い。<br>○日本の主な輸出品の割合と輸出額の変化について、資料を読み取る問題の正答率は同じ。<br>●キャリアカーと船の理解をもとに、自動車の出荷の工夫を問う問題の正答率がやや低い。                                        | ・なぜその工程や作業、工夫などが必要になるのか考える活動を多く設定していく。<br>・複数の資料を比較し、内容を読み取る活動を多く設定していく。                                                   |
| 産業と情報との関わり   | 平均正答率は、市の平均正答率と比べて低い。<br>○自然災害から生活を守る設備について理解しているかを問う問題での正答率が高い。<br>●メディアの特徴について理解しているかを問う問題での正答率が低い。<br>●資料に着目して、コンビニエンスストアで情報を活用する利点を考え、表現する問題の正答率が低い。<br>●森林の働きを捉え、表現する問題の正答率が低い。 | ・資料を活用しながらメディアや情報、自然や環境などの基礎・基本となる知識の定着を図る。<br>・児童にとって身近な資料を使用し、生活の中の情報について、関心をもって追究したり考えたりすることができるようにする。                  |
| 日本の政治        | 平均正答率は、市の平均正答率と比べやや高い。<br>○基本的人権の尊重について、生活の中の具体的事例をもとに判断する問題の正答率がやや高い。<br>○税金についての理解を問う問題での正答率が高い。<br>○政治の仕組みを判断する問題の正答率が高い。<br>●日本国憲法についての理解を問う問題での正答率が低い。                          | ・資料を活用しながら日本国憲法の基礎・基本となる知識の定着を図る。<br>・日本国憲法の学習の際、資料を活用しながらしっかりと捉えられるよう指導していく。<br>・図を用いて相互の関連性を考えながら、仕組みについて考える活動を多く設定していく。 |
| 日本の歴史        | 平均正答率は、市の平均正答率と比べて低い。<br>○15世紀から17世紀の出来事について、適切な見出しを判断する問題の正答率が高い。<br>●大和朝廷や室町時代の文化について問う問題での正答率が低い。<br>●北条政子の訴えについての理解をもとに、年表を読み取る問題の正答率が低い。                                        | ・歴史的な事象のつながりや、歴史上の人物の業績などを表や図を用いて整理してまとめ、基礎・基本となる知識の定着を図る。<br>・資料から読み取ったことや自分の考えをまとめ表現する時間を設定し、思考力、判断力、表現力の向上を図る。          |

宇都宮市立五代小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |          | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 数と計算     | 67.6 | 71.8 | 76.2 |
|     | 図形       | 58.8 | 67.7 | 67.8 |
|     | 変化と関係    | 51.9 | 63.4 | 62.7 |
|     | データの活用   | 61.6 | 66.7 | 61.5 |
|     |          |      |      |      |
| 観点別 | 知識・技能    | 61.2 | 68.6 | 70.7 |
|     | 思考・判断・表現 | 63.2 | 68.5 | 66.0 |
|     |          |      |      |      |
|     |          |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

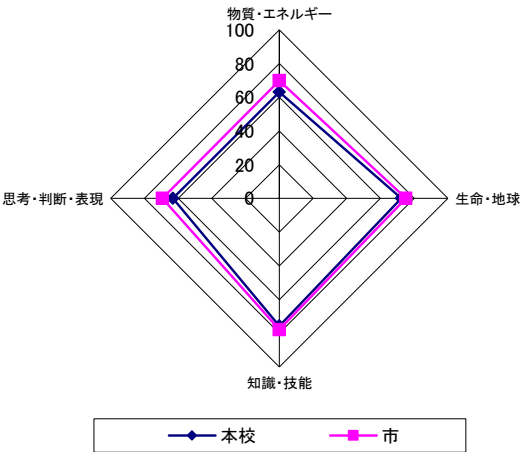
| 領域     | 本年度の状況                                                                                                                                             | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                        |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | 平均正答率は、市の平均正答率より低い。<br>○小数や分数の計算に関する「かけ算の問題」の正答率は、市の平均正答率を上回っている。<br>●小数や分数の計算に関する「わり算の問題」や「文字の式」に関するそれぞれの問題の正答率は、市の平均正答率を下回っている。                  | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・「小数や分数の計算」に関しては、授業や朝の学習を活用し、練習問題を繰り返し取り組ませることで、計算方法(特に、わり算)の定着を図る。<br>・「文字の式」の問題に関しては、授業や朝の学習を活用し、文章問題を繰り返し取り組ませることで、立式する力の定着を図る。<br>・技能に個人差が見られるため、個に応じた支援を行っていく。 |
| 図形     | 平均正答率は、市の平均正答率より低い。<br>○「三角形の面積」や「対称な図形」に関する問題の正答率は、市の正答率より低い、80%を上回っている。<br>●「複数の図形を組み合わせた図形の面積」の関する問題の正答率は、20%前後であり極めて低い。また、市の正答率との差も大きく課題が見られる。 | ・「図形の基礎問題」に関しては、図形の面積や立体の体積の求め方を繰り返し復習し、図形の基礎定着を図る。<br>・複数の図形を組み合わせたような「図形の応用問題」に関しては、実際に図形や立体を描かせ、それを組み立てる活動に繰り返し取り組ませることで、図形の構成を見抜く力の定着を図る。                                                   |
| 変化と関係  | 平均正答率は、市の平均正答率より低い。<br>●「割合・割合のグラフ」に関する問題の正答率は、市の正答率より低く、市の正答率との差も大きい、ため課題が見られる。                                                                   | ・「単位量あたりの大きさ」や「割合」の問題に関しては、「くらべる量 もとにする量 割合」の意味を確認したり、数直線などの図を用いてもとめる事項を正しく理解させたりする活動を取り入れることで、見通しをもって問題に取り組む力の定着を図る。                                                                           |
| データの活用 | 平均正答率は、市の平均正答率より低い。<br>○平均・データの見方に関する問題で、ヒストグラムや折れ線グラフなどの「資料を読み取る問題」の正答率は、市の正答率より低い、ポイントが高い。<br>●「資料を読み取り、説明をする」問題の正答率は、極めて低く課題が見られる。              | ・「資料を読み取る問題」に関しては、ヒストグラムや折れ線グラフ等の資料の特徴が活かされた練習問題を繰り返し取り組ませることで、資料の見方の基礎定着を図る。<br>・「説明する問題」に関しては、説明する力を育むために、他教科との連携を図った指導を行っていく。                                                                |
|        |                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                 |
|        |                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                 |

宇都宮市立五代小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |          | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 物質・エネルギー | 63.1 | 69.9 | 67.8 |
|     | 生命・地球    | 72.3 | 75.1 | 73.7 |
|     |          |      |      |      |
|     |          |      |      |      |
| 観点別 | 知識・技能    | 75.7 | 77.8 | 78.4 |
|     | 思考・判断・表現 | 63.1 | 69.4 | 66.2 |
|     |          |      |      |      |
|     |          |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域       | 本年度の状況                                                                                                                                                              | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                    |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 物質・エネルギー | 平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。<br>○水よう液の性質の分野では、炭酸水から出る泡が何かを問う問題で、市の平均より高い。<br>●ふりこのきまりの分野では、対照実験の方法を問う問題の正答率が、市の平均よりも大幅に低い。<br>●メスシリンダーの目盛りの正しい読み方についての問題の正答率が10ポイント以上低い。    | ・実験を行うときの様々な条件について、変えて調べる項目と、揃えるべき項目について十分理解したうえで実験を始める必要がある。結果の考察の時間を十分に取し、規則性を見出せるようにし、科学的な見方や考え方を深められるように支援していく。<br>・実験を行う際は使用の目的や器具の操作方法を丁寧に示していく。また、すべての児童が実際に操作を行えるよう配慮し、知識・技能の定着を図る。 |
| 生命・地球    | 平均正答率は、市の平均正答率より低い。<br>○食物連鎖に関する2つの問題の正答率はそれぞれ91.7%、88.0%と高く、市の平均を上回っている。<br>○月と太陽の位置関係と月の形の変化を問う問題の正答率が高く、市の平均を上回っている。<br>●植物の発芽と成長の分野では、どの問題も正答率が市の平均より5～8ポイント低い。 | ・上記同様に対照実験の意義を理解させ、実験を行うときの様々な条件について、変える項目と揃えるべき項目をはっきりつかませる。<br>・観察や実験の結果、考察について、図や絵での表現だけでなく、必要な言葉を用いてレポート等にまとめる活動を行い、知識・技能の定着を図る。                                                        |
|          |                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                             |
|          |                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                             |
|          |                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                             |
|          |                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                             |

## 宇都宮市立五代小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                                      | 取組の具体的な内容                                                                                                | 取組に関わる調査結果                                                                                                            |
|---------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・基礎基本を確実に習得するとともに主体的に学習に取り組む、課題を解決できる手立ての工夫 | ・宇都宮モデルを活用し、課題解決にじっくり取り組む活動を取り入れ、一人一人の学習の状況を的確に見取り、適切に指導・支援する。<br>・自己の学習活動を振り返り、次につながる主体的な学びの実現を図る。      | ・各教科とも、多くの領域で正答率が、県・市の平均正答率を下回っている。<br>・算数(高学年)では、習熟度別(少人数)指導において、個に応じた指導を充実させる。<br>・朝の学習や授業での復習・定着の場を活用し、基礎基本の定着を図る。 |
| ・粘り強く自力解決に取り組む、より良く解決できる手立ての工夫              | ・授業の中で働かせたい見方・考え方をしっかりと確認しておき、思考の過程や根拠を表現させるための手立てを工夫する。<br>・児童が興味をもち進んで学習できるような学習方法を取り入れ、学びを深められるようにする。 | ・各教科とも、多くの領域で正答率が、県・市の平均を下回っている。<br>・粘り強く自力解決しようとする意欲と、それを支える基礎・基本の内容の確実な習得が必要と考えられる。                                 |

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・児童の知的好奇心を高められるような導入を工夫した授業展開や、身近なものに置き換えて考えられるような学習課題を設定し、児童が意欲的に学習活動に取り組むことができるようにする。
- ・基本的な学習態度・学習技能の習得を基に、一人一人に応じたきめ細やかな指導を展開し、基礎基本の確実な定着を図る。(少人数指導、かがやきルームの活用、朝の学習の効果的な運用)
- ・学習問題・めあてに基づいたまとめや振り返りの時間を十分に確保し、授業の終末の充実を図ることで、学習内容の確実な定着を図る。
- ・基礎基本を確実に習得するとともに、主体的に学習に取り組む、課題を解決し自分の学びを深めていけるようにする。